

ZANDEN Model 120 の展開(77) ーベーターヴェンを聴き直す(12)ー

1. 始めに

前報(76)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンのピアノソナタの下記を選定しました。

ドイツグラモフォン MG2366

ピアノソナタ 29 番変ロ長調作品 106

ピアノソナタ 30 番ホ長調作品 109

ウイルヘルム・ケンプ

ドイツグラモフォン MG2367

ピアノソナタ 31 番変イ長調作品 110

ピアノソナタ 32 番ハ短調作品 111

ウイルヘルム・ケンプ

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(29\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(30\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

2 枚の盤とも、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

ケンプのピアノソナタは、先のベートーヴェン全集でも聴いていますが、力強い打鍵で歯切れの良い演奏です。

ピアノソナタ 29 番は、そういったケンプのピアノリズムが活きた切れ味の良い演奏です。

ピアノソナタ 30 番は、多彩な表情を見せる曲ですが、ここでもケンプのピアノリズムが冴えています。

ピアノソナタ 31 番は、抒情的な表情から始まりますが、熱情的な表情も見せ、ケンプの多彩な表現力が際立ちます。

ピアノソナタ 32 番は、ケンプの強靱な打鍵から始まり、静かに抒情的に歌うパッセージもあり、軽快に弾むようなパッセージもありと多様な展開をケンプが描き分けて行きます。

4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上